大きく羽ばたけ、旅立つ人たち

人は誰かの役に立てるから…

～看護の道を選んで、歩きます～

今、お年寄りの患者さんが増え、その一方で家族の数が減っていることから、病気にかかっている方を心身ともに支える人たち、つまり准看護婦や看護婦の存在がクローズアップされています。そこで、今号では看護の道を選び、四月に新しい第一歩を踏み出そうとしている二人の女性にスポットを当ててみました。

私の道、ここにあり

石井和子（田家1）

専業主婦の道から看護の道へ

石井さんは結婚して専業主婦となり、夫を支えたり、子どもを育てたりと、家庭内で大きな仕事をしてきました。やがて、子育てが落ちつき、何か心の余裕が生まれたとき、"家族のためだけでなく、人のためにできることってないか……"、そんな思いがしだいに膨らみ、准看護婦の世界を目指すようになりました。「准看護婦になりたいこと、そのために学校へ通わなければならないこと、家族に負担がかかることなどを率直に話したところ、夫をはじめ、家族みんなが理解を示してくれました。これがあったから、今こうしていられます」と話す石井さん。

家族のために頑張るという考えを広げて、地域や周囲の人たちのために自分の力を生かしてみたい気持ちを胸に秘めながら、看護の道を歩き始めました。

二年間の努力は実生活にも役立って

久し振りに経験する学生生活。とにかく覚えることがいっぱいあり、看護するにはこんなに勉強しなければならないのかと、時には時間が長く感じられたこともあったそうです。

昼間は学生、夕方からは主婦、そして夜になると再び学生と、一日のうちに何回か姿を変えて奮闘する日々が続きました。「主婦と学生の両立は大変な面もありましたが、二年間の勉強で得るものはあまりにも多かったです。看護や医療の知識は准看護婦となって役立つほかに、毎日の生活の中で緊急時にも生かせます。若い人たちが多い学生生活の中で、主婦である私が頑張れた一つに、いい友達に恵まれたからです。本当にいい思い出です」と話す石井さんは、准看護婦の資格を取得した後に病院現場に立ちます。

卒業式には卒業生を代表して答辞を述べた石井さんの目には涙が光り、その顔には主婦としての輝きとともに、看護の道に生きる女性としての輝きも加わり、眩しいくらいでした。「私の道を後押ししてくれた家族に感謝し、地域に溶け込んで患者さんの気持ちが分かる看護に努めたいです」と優しく話す姿は、こんな生き方もできるんだということを私たちに語りかけているようでした。

看護実習にて（前列左から2番目が石井さん）

お買物、ご用命は市内で

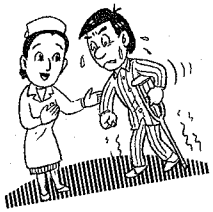
天ぷら油過熱防止機能付ガステーブルコンロ
温度が約250℃になると、安全センサーのチェックで自動消火します。天ぷらやフライなど油を使うお料理も安心して作れます。

不完全燃焼防止装置付ガス小型湯沸器
うっかり換気を忘れたり、ほこりによる熱交換器の目づまり等があった時、炎の異常を感じ、自動的にガスを止めます。

ガス漏れ警報機
万一ガス漏れが発生した場合、ランプと警報音でお知らせします。24時間ガス漏れを監視する、暮らしの見張り番です。有効期限（5年）がきたら、お取り替えが必要です。

おすすめします。 もしものための、安心機能付
越後天然ガス㈱ 新津(営) 24-2171 荻川(営) 25-2100

看護の道を歩く女性たち



医学や医療の進展に応じた看護の養成

国では、安全で安心できる医療を患者さんが受けられるよう、キュア（治療）の部分だけでなく、優しさや安らぎなどのケア（世話）の面にも力を入れています。こうした体制を整えるには、病院現場だけの世界から地域単位で看護ネットワークを築くとともに、看護婦や准看護婦の存在が何よりも大切になってきます。現在、1年間で全国の看護婦・准看護婦養成機関を卒業する人は8万人近くいますが、高齢化、疾病構造の変化、医学や医療の進歩、看護理論や技術の進展に対応した養成が進められています。このように、看護婦や准看護婦は高齢化社会を支える一翼を大きく担っています。

人に愛される看護を

渡辺理子（中沢町）

看護の勉強に明け暮れた毎日

渡辺さんは、以前に看護助手として病院勤務をしていました。ある日、職場の人に「看護の仕事を続けていくなら、きちんと資格を取得したらどう」と勧められ、看護の道を切り開いていくためにも、三市中蒲准看護学院の門をくぐりました。

「看護の勉強を始めて、毎日時間が足りないくらいでした。講義や看護実習、家に帰ってからの復習と、本当に自分がやっていけるかどうかという不安もありましたね」と話す渡辺さん。しかし、そんな不安は先生たちの温かい指導と共に学ぶ仲間たちとの交流、それに持ち前の明るさで少しずつ解消され、一つ一つ確実に看護のイロハを身に付けていきました。

患者さんが望む看護を大切にして

二年間の学生生活に別れを告げ、新たな旅立ちを迎える渡辺さん。四月からは県立加茂病院付属看護専門学校（加茂市）に進学し、看護婦としての知識や技術の習得に努めます。「あと二年間学校生活を送ります。准看護婦になるために学んだことはたくさんあります。これらは病院現場だけでなく、毎日の生活においても役立ちます。患者さんが望んでいる看護とは何か、人に愛される看護とは何かを頭に入れて頑張っていきたいです。今思うことは、新しい将来を選んで良かったということです」と話す目には、近い将来患者さんたちと接している自分の姿がいつも映っているのかもしれません。

人が人を看護することは、ある意味で人が人の心を支えていくことにつながります。新しい春を迎えた一人の女性は、二年前の入学式よりも確実に大きく成長して、次の門をくぐっていきます。あと少し春を繰り返した後には看護婦となり、きっと大きな力で人の心も支えてくれることでしょう。

凛々しい姿の渡辺さん

お買物、ご用命は市内で

内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6－12 TEL(24)－5122

春 彼岸です。
お供えに"フルーツ盛りかご"いろいろ取り揃えました。
フルーツ&ギフト やまいし
本町2（新光商店街） TEL 23－0397 FAX 23－3158